

はじめに

本書は、河合塾地理科講師である瀬川聡、松本聡、伊藤彰芳の三人が、今までの教員経験のすべてを結集して完成させた地理用語集です。「地理用語集」って聞くと、なんだかよくわからないけど、重要そうな地理の用語と地名がいっぱい羅列されていて、「とにかく重要だから覚えておきなさい」的な味気ない受験本を想像してしまうかもしれませんが、本書はまったく違います！！

本書（G）では、君たちが授業を受けたり、受験勉強をする際に絶対に必要な用語と地名を、教科書に完全準拠した形で抽出しました。そして、それぞれの用語・地名などを君たちが、おぼえたり理解したりしやすいように、できる限りシンプルに、しかも相互の関連性を踏まえて説明することにチャレンジしています。つまり本物の地理の学力を養成するため作成しました。

Gを使って地理学習を行えば、大学受験で必要とされる知識・技能を習得でき、思考力・判断力に磨きをかけることができます。さらに表現力までが身につくというパーフェクトな学習参考書です。

つまり、Gは日本史上最高の地理用語徹底解説書だと自負しています（その結果、刊行までに膨大な時間を費やしてしまいましたが・・・）。

- ・ 高校、予備校の授業の予復習に辞書として使っても OK !
- ・ 定期考査の前に重要語句や地名の確認に使っても OK !
- ・ すべての教科書に準拠し、最重要語句 1,700 語以上、関連語句 5,000 語以上を網羅！！
- ・ 地理の基礎的知識と技能の習得に抜群の効果！
- ・ 本書“G”を使い、すべての大学入試に必要な思考力、表現力を育成し、完璧な対策を！

地理は、最高に面白く、奥深だけでなく、われわれの生活に密着した学問であり教科です。本書の書名の語源ともなった Geography という名称からもわかるように、地表 (Geo) で起こったさまざまな事柄や出来事を研究対象とすることから、理系分野から文系分野まで守備範囲は世界中の学問の中で最も広いと言っても過言ではないと思います。世の中ではあまり知られていないかもしれませんが (知られていないこと自体が大問題!)、地形、気候などの自然地理、産業、人口、都市などの人文地理など、大学でも文系学部から理系学部まで多くの大学・学部に研究室が設置されていることから幅の広さがわかります。G をフルに活用して、地理の基礎的知識・理論の定着と地理的思考力の育成を実現させてください。G は自ら学ぼうとする君たちを必ずバックアップしてくれるはず!

本書を手がけたわれわれ三人 (瀬川、松本、伊藤) も地理が大好きです! しかも地理を学んだり教えたりすることを日々楽しんでます。これだけ面白くて、世の中のためになる地理を君たちにも楽しんで学習してもらいたいし、そして大学受験に成功し、地理的な見方・考え方をいかして社会に貢献して欲しいなと本気で思っています。

謝 辞

本書の作成にあたっては、河合塾地理科の坂本勉先生をはじめ、多くの先生方、また多くの高等学校の先生方の助言を承りました。先生方のご協力なしには本書の刊行はありませんでした。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、なかなか原稿が出ないわれわれを忍耐強く叱咤激励し、ていねいな編集をしてくれた河合出版編集部の方々にも感謝をしています。

2019年4月

河合塾地理科講師

瀬川 聡

松本 聡

伊藤 彰芳



Contents | もくじ

はじめに	2
もくじ	4
本書の使い方と構成	8

第Ⅰ部 地理的技能

9

第1章 さまざまな地図と地理的技能	10
Ⅰ 地理情報と地図	10
●コラム● インターネット上の地図	21
第2章 地理の活用と地域調査	22
Ⅰ 地理の活用と地域調査	22

第Ⅱ部 系統地理

29

第1章 自然①（地形）	30
Ⅰ 大地形とプレートテクトニクス	30
●コラム● 大陸移動説	37
Ⅱ 火山と地震	38
●コラム● 火山災害と恩恵	40
Ⅲ 河川がつくる地形	41
●コラム● 小学校の理科	46
Ⅳ 日本の地形と災害	47
Ⅴ 海岸の地形	48
Ⅵ 特殊な地形	52
●コラム● サンゴ礁と地球温暖化	55
第2章 自然②（気候）	56
Ⅰ 世界の気候	56
Ⅱ 気温・風・降水	57
Ⅲ 植生と土壌	72
●コラム● ケッペン以外の気候区分	77
第3章 自然③（環境問題）	78
Ⅰ 環境問題	78
第4章 産業①（農業・水産業・林業）	86
Ⅰ 農業の起源と農業地域の形成条件	86
Ⅱ 農業地域区分	90
●コラム● ヨーロッパの農業とモンスーンアジアの農業	97
Ⅲ 世界における農業の動向	98

●コラム● 穀物メジャー	100
Ⅳ 世界のおもな栽培植物	101
Ⅴ 世界の水産業	107
Ⅵ 食料問題	109
Ⅶ 世界の林業	112
Ⅷ 日本の農林水産業	114
●コラム● 日本の林業の問題点	115
第5章 産業②（エネルギー・鉱産資源・工業）	116
Ⅰ エネルギー資源	116
Ⅱ 鉱産資源	121
Ⅲ 資源・エネルギー問題	125
Ⅳ 工業	128
第6章 産業③（第三次産業）	144
Ⅰ 第三次産業	144
第7章 交通・通信・貿易	150
Ⅰ 交通	150
Ⅱ 情報・通信	154
Ⅲ 貿易	156
第8章 人口・人口問題	160
Ⅰ 世界の人口分布と人口増加	160
Ⅱ 人口構成と人口動態	162
Ⅲ 人口問題	167
第9章 村落・都市	172
Ⅰ 村落	173
Ⅱ 都市	178
●コラム● 都市と統計と当事者であること	191
第10章 衣食住・生活文化	192
Ⅰ 生活文化	192
Ⅱ 民族と国家	197
●コラム● 公用語と母語	201
●コラム● 多言語国家インド	205
●コラム● 人種のるつぼとサラダボウル論	212

現代世界の諸地域	215
第1章 アジア	216
Ⅰ アジアの地形	216
Ⅱ 東アジア	217
●コラム● 中国は先進国か、発展途上国か？	231
●コラム● 日本と韓国	236
Ⅲ 東南アジア	237
●コラム● ASEANの経済発展	248
Ⅳ 南アジア	250
●コラム● インド人の食生活	261
Ⅴ 西アジア	262
●コラム● アラブ産油国の脱石油化への努力	273
第2章 アフリカ	274
Ⅰ アフリカの自然環境	275
Ⅱ アフリカの社会	278
Ⅲ アフリカの産業	282
Ⅳ アフリカの各国地誌	285
●コラム● アフリカの未来	291
第3章 ヨーロッパ	292
Ⅰ ヨーロッパの自然環境	293
Ⅱ ヨーロッパの社会	297
Ⅲ ヨーロッパの産業	302
Ⅳ ヨーロッパの各国地誌	308
第4章 ロシアとその周辺諸国	316
Ⅰ ロシアとその周辺諸国の自然環境	316
Ⅱ ロシアとその周辺諸国の社会	321
Ⅲ ロシアとその周辺諸国の産業	324
Ⅳ ロシアとその周辺諸国の各国地誌	327
●コラム● 「罪と罰」とロシアの生活文化	329
第5章 アングロアメリカ	330
Ⅰ アングロアメリカの自然環境	331
Ⅱ アングロアメリカの生活・文化	335
Ⅲ アングロアメリカの産業	339
Ⅳ アングロアメリカの各国地誌	347

第6章 ラテンアメリカ	348
I ラテンアメリカの自然環境	349
II ラテンアメリカの社会	352
III ラテンアメリカの農牧業	354
IV ラテンアメリカの鉱工業	356
V ブラジルの経済発展・開発とそれにとまなう問題	359
VI ラテンアメリカの各国地誌	359
第7章 オセアニア	364
I オセアニアの自然環境	364
II オセアニアの社会	367
III オセアニアの産業	369
IV オセアニアの各国地誌	371
第8章 日本	374
I 日本の自然環境	374
II 日本の農林水産業	380
III 日本の鉱工業	383
さくいん	388
著者紹介	400